

1. 神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、(1:1)
 - a. 健康な教会、健康なクリスチャン、そして一般的に健康な人間になるためには、自分自身を知り、自分は何をすべきかということを理解する必要がある。自分のアイデンティティを明確にし、具体化し、神との関係を見い出していくことが永遠の遺産を残すための基本となる。
 - b. パウロはコリントへの手紙をアイデンティティを念頭に置いたうえで書いている。パウロ自身が建てたコリントの教会は不健康になり破滅へと向かっていた。彼らは神からの機会をことごとく失い、パウロは教会を正しい方向に向き直すべくこの手紙を書いた。
 - c. この手紙はまず彼が何者であるか、ということをはっきりさせている。彼はユダヤ名でなくギリシャ名（小さいという意味）を使っている。肩書とコーリングは「使徒」、そして冒頭で兄弟ソステネ（救い主、強い、という意味）の名を挙げている。
 - d. パウロは自ら選んで使徒になったわけではなかった。それはイエスご自身が彼に与えた召命（コーリング）であった。パウロはそれを確信し、それにすべてをささげたので使徒としての使命を完遂できたのであろう。私の考えでは、パウロは生きている間に私たちが知っているよりもはるかにたくさんのかんことを成し遂げたが、中でも最も偉大で永遠の価値を残したのは彼のコーリングを通して行なった業だと思う。

2. コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。(1:2)
 - a. パウロは多くの意味で特別だが、人生のコールを受けたのは彼だけではない。私たちすべてがコーリングを受けている。それは神が一人一人に個人的にお示しになるものである。といっても人生の一般的なコーリングについては常に敏感に求めていかななくてはならない。
 - b. 私たちは聖い者となるよう召されている。聖くなるということは最もすばらしいコーリングの一つである。
 - c. 私たちの命はキリストの血によって買い取られた（犠牲を払ってまで買いたいと思うほどの価値をつけてくださった）。それは私たちが好きなように生きるためではなく、私たちの命を神にささげるためである。
 - d. 私たちが神の御前に自分自身を聖別する時、神は私たちを永遠の目的のために使われる。その価値は永遠の視点によってしか計ることができない。パウロの生き方を見る時、彼の地上での生涯は失敗のように見えるかもしれない。コリントの教会は彼を否定し彼に敵対した。しかし永遠の視点で見ると、今残っているもの、天にだけでなく今日の私たちが受けているものもパウロが残してくれた遺産だということがわかる。

3. 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。(1:3-5)
 - a. パウロは一生懸命仕えたが、永遠の価値があるものは神の恵みによってのみ得られるということを誰よりも彼自身が知っていた。
 - b. どんなにがんばっても恵みなしでは無駄骨に終わる。神の恵みを得られるようにするには私たちが神からの使命を受け入れなければならない。それを実行する時、永遠に影響を与える仕事ができる。コリントの教会がパウロを使徒と認めて受け入れていたなら永遠の遺産を残していたであろう。